



兵庫県議会議員 内藤兵衛

県政NEWS
No.30 2017.5

一日生涯

「一日生涯」は、内藤兵衛議員の座右の銘です。今日の一日を生涯と心得て、全力を出し切るという思いを込めています。

夢をもち兵庫の真の実力を発揮

兵庫県議会議員 内藤 兵衛

兵庫県が誕生して、あと1年で150年を迎えます。これを節目として、県では、県民とともに「夢」を描く「2030年の展望」を今年度策定することになっています。「夢」こそが今後の県政のキーワードではないでしょうか。

そのような思いから、平成29年度県当初予算案などを審議する第335回2月定例県議会において、「夢」をテーマに一般質問を行いました。地域が未来に向けて進んでいくためには、夢が必要であることを強調し、5項目6問にわたり、質問いたしました。

地元からは大勢の方に傍聴に駆けつけていただき、

本当に心強く、感謝の思いでいっぱいです。改めてお礼申し上げます。

平成29年度予算は審議の結果、原案通り可決されました。井戸知事は平成29年度の「地域創生本格化」の



全ての兵庫県民が自らの目標を持って、意欲的に生活をする活力あふれる兵庫、県民が夢や希望を持てる兵庫の実現に向けて29年度もまい進いたします。

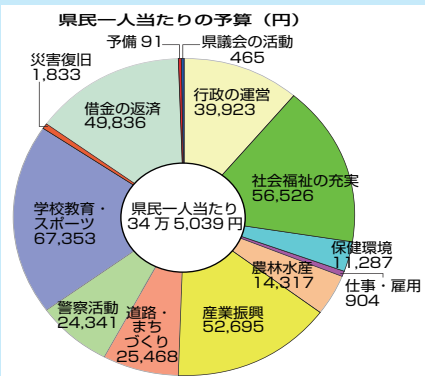
今後ともご支援、ご鞭撻のほどよろしくお願いたします。

平成29年度県当初予算

平成29年度県当初予算は、一般会計1兆9,038億円、特別会計及び公営企業会計を合わせた総額で3兆2,061億円にのぼります。社会保障関係費が増加する中、最終2力年行革プランを基本に、直面する課題の人口の社会減対策、子ども子育て支援対策をはじめ、2025年の高齢化問題、地震・津波対策や山地防災・土砂災害対策、公共施設の長寿命化対策など安全安心の基盤づくり、兵庫の元気づくりなどに配分され、夢叶う兵庫へ未来を切り拓くものと期待しています。

歳入歳出の収支不足額は170億円となり、前年度から150億円改善しましたが、引き続き厳しい財政環境が見込まれ、さらなる選択と集中や市町との連携強化、積極的な歳入確保対策が求められます。

予算の執行状況を厳しくチェックすると共に、実効性ある事業展開を求めています。



主な財政指標（財政運営の目標の状況）（単位：億円、%）

区分	H29	H30	H30年度までの目標
収支均衡	△170	0	収支均衡（改革期間後半）
プライマリーバランス（基礎的財政収支） 臨時財政対策債、減収補填債75分を除く	1,019	1,164	黒字（毎年度）
実質公債費比率（比率） （借入金の返済額の割合）	15.6% [15.3%]	15.4% [14.8%]	18%水準 （H30）
県債残高（県の借金） 臨時財政対策債、減収補填債75分を除く	83.5% 2兆8,043億円	79.8% 2兆6,815億円	H19の80%水準 （H30） 2兆6,874億円
将来負担比率 （負債の大きさを割合） （震災関連県債残高を除く）	290.1% [256.7%]	283.5% [249.3%]	250%水準 （震災の影響を除く 比率がH19の全国 平均水準） （H30）
県債管理基金活用額	0	0	ルール積立額の約1/3以下（毎年度）

【 】書きは、教職員給与負担事務の政令市への移譲に伴う標準財政規模、超低金利環境を踏まえて平成28年度に実施した借換債の前倒し発行による県債管理基金残高等の影響を考慮した場合の数値

第335回2月定例県議会一般質問に登壇

内藤 多可町は酒米の王様「山田錦」発祥の地。加えて地元、北播磨地域では「山田錦」のほかに、「播州百日どり」、「黒田庄和牛」など、名だたる名産品がある。これら産品の名称を知的財産として保護する制度がいわゆる「地理的表示保護制度」であり、平成27年6月に制度がスタートした。国では生産業者の利益の保護を図ると同時に、農林水産業や関連産業の発展、需要者の利益を図るよう取組を進めている。

1 県産農林水産物の地理的表示保護制度の活用

山田錦などの産地を守ると同時にシェア拡大や輸出も含めた攻めの両面で地理的表示保護制度をより一層活用すべき。

農政環境部長 圏内では但馬牛、神戸ビーフが登録されている。山田錦は登録名を「グレードアップ兵庫県産山田錦」として、ほんまもん山田錦需要拡大協議会が申請する。このようなブランド化により、農山漁村の活性化、地域創生につなげる。

2 県産木材の利用促進へ県民行動指針が必要



内藤 資源小国の日本にあつて、木材は貴重な循環資源だが、「宝の持ち腐れ状態」となっている。森林は県民共有の財産である意識を高める必要があると考

えている。木材を優先的に活用するウッドファースト社会への転換を促し、県、市町、事業者、県民がそれぞれの立場で木材利用の意識を高めるための共通認識を持つ必要がある。県民の行動指針も含めた全県的な取組は。

井戸知事 豊かな森林資源が次代に引き継がれるように、建築用から燃料用まで余すことなく利用することを基本理念とする明確な指標が必要。関係者が共通理解を持つために、さらに部門別の事業実施の基本計画を検討していく必要があると考えている。

林業先進県の熊本を視察調査しました



自民党議員団では、会派内に林業振興議員連盟を設け、私が事務局長を担当しています。林業先進地での調査研究等を通じて、具体的な政策提言を行ってきました。

2月7、8日には、熊本県で管外調査を実施。昨年の熊本地震により甚大な被害を受けましたが、熊本県は林業先進県で、その視点から森林災害、大規模な山腹崩壊の現場を視察しました。災害への

県産木材利用促進へ 議員提案条例を検討

備えとしても木材を積極的に活用していくことの必要性を実感しました。

森林は県民共有の財産である認識から、同議連で県産木材利用促進条例の素案をまとめました。林業だけでなく森林の多面的機能を活かし、災害に強い県土づくりや地域創生への寄与を目的としています。議会内での議論、パブリックコメント等を経て6月定例会での可決をめざしています。

林業先進県・熊本を視察 防災に果たす役割を調査

夢をテーマに一般質問「兵庫の進むべき道は」

内藤 安全安心の確保は、県政の1丁目1番地である。厳しい財政状況にあっても地域の基盤を守る治水事業や、県民生活、交流人口の増に欠けない道路事業など社会基盤整備を着実、計画的に進める必要がある。

3-1 計画規模を上回る 降雨に備えた減災対策

まず、今後の治水対策のあり方について、県では平成24年、全国初となる「総合治水条例」が施行され、河川下水道対策に加え、流域対策や減災対策を組み合わせた総合治水にも取り組んでいる。しかし、近年、雨の降り方が明らかに変わってきており、計画規模を上回る降雨に備えた減災対策のあり方について伺いたい。

県土整備部長 想定し得る最大規模の洪水に対する浸水想定区域図を順次作成・公表し、住民が大規模な浸水リスクを認識し、危険が迫った場合、的確に避難できるよう促す。また、河川の状態などの情報を確実に市町長等へ伝えるホットラインを構築する。

3-2 防災機能を併せ持つ 道路施設の耐震対策

内藤 次に道路の持つ防災機能に着目して質問したい。広域災害時、救援活動、緊急物資の輸送等を円滑に行うとともに、地域経済への影響を最小限に留める上で、道路が果たす役割は非常に大きい。道路施設の耐震対策を計画に基づき着実に力強く推進していく必要がある。

県土整備部長 緊急輸送道路は、35年度までに残る未改良区間約7キロを2車線化。また、多可町の加美八千代線天船バイパスを29年度完了させるなど、緊急輸送道路と主な避難所を結ぶ補完ルートも整備を推進する。橋梁では対象87橋のうち28年度までに25橋の対策が完了し、今後も西脇市の山南多可線船町橋で橋台と桁を連結するなど、落橋や倒壊対策を推進。道路法面では453箇所のうち203箇所の対策が完了し、今後多可町の西脇八千代市川線中野間地区で落石防止ネットを設置するなど崩壊対策を推進する。

多様性と連携で未来を切り拓く

4 全ての人が社会を支える 主人公になる社会に

内藤 社会保障費が年々増加する中、一人一人の特質に応じて役割を分担し、全ての人が社会を支える主人公になれる社会づくり、それは地域創生にもつながっていくはず。地域が共に支え合い、地域の構成員が地域のために能力を発揮できる仕組みづくりを支援する必要があるのではないかと。

健康福祉部長 地域団体が事業者、NPOなどと協調し、子育て中の家庭や子ども、高齢者や障害者らに必要な支援を行う自主的な地域の仕組みづくりを支援する。

5 夢叶う兵庫の実現へ 地域創生の取組

内藤 今、まさに、未来を切り拓く地域創生にチャレンジしている。兵庫の持つ五国の多様性と、その多様性との連携をどのように活かすかが重要であり、将来への確かな展望を持ちながら、地域資源、魅力を再発掘し、磨きをかけ、自信と誇りを持てる「どこよりも夢叶う兵庫」の実現に向けて、今後、兵庫のめざす地域創生の姿は。

井戸知事 地域創生戦略の基本「多様性と連携」を推進する2つのキーワードが「自立」と「交流」である。各地域間や様々な主体間の「交流」により、活力向上と新たな価値創出を図っていく。

こうした自立と交流の取組を通じて、兵庫の魅力である多様性を最大限に生かし、人口減少下でも、活力にあふれる兵庫を築いていきたい、そのために目標として夢を掲げるべき、夢をもつべきだと考えている。

前ボクシング世界王座・長谷川穂積さん 県スポーツ優秀選手特別賞を受賞

一般質問でも述べましたが、地域創生とは地域に根ざす住民一人ひとりが、自らが地域の担い手であるという自覚を持ち、特性を発揮しながら、共に力を合わせて生きていくことのできる社会をつくり上げることだと考えています。そのような取組をリードし、意欲を奮い立たせてくれる県民が沢山いると信じています。



代表する一人が西脇市出身、前WBCスーパーバンタム級チャンピオンの長谷川穂積さんではないでしょうか。このほど県スポーツ優秀選手特別賞を受賞され、贈呈式に同席いたしました。今後は、ボクシングのすそ野を広げるために活動していきたいと力強く語っておられました。その言葉に感銘し、議員として力になりたいと考えています。

内藤ひょうえ >> プロフィール << 内藤 兵衛

- ・昭和33年9月14日 多可郡中町（現多可町中区）生、58歳
- ・中町立北幼稚園、同北小学校、同中町中学校、私立天理高校卒業
- ・国立大阪大学法学部卒業

- ・昭和57年、総合商社(株)トーメン入社。ニューヨーク本店、大阪本店、上海店勤務。平成18年10月退職。
- ・平成19年4月、兵庫県議会議員初当選。6月から任期スタート
- ・建設常任委員会委員長、現・総務常任委員会委員長
- ・自民党県議団政調会長、同副幹事長
- 家族：母、妻、一男 ○趣味：マラソン ○好きな言葉：一日生涯